

極早生品種「鳳春」で霜害後の新芽生育を速やかに回復するせん枝技術の確立

■開発のねらい

「鳳春」は、京都府育成の極早生品種で、早期に摘採ができる反面、霜害のリスクが高く、霜害後の適切な対応が求められます。

そこで、霜害後のせん枝が、新芽の生育に与える影響を検討し、霜害後の新芽生育を速やかに回復するせん枝技術を確立しました。

■技術の効果

・萌芽期～1葉期に中～強被害を受けた場合は、秋整枝面から1.5～2.0cm下で浅せん枝により側芽の割合が増加(図1)

※浅せん枝は、秋整枝面より上に伸長し枯死した芽が除去され、秋整枝面直下の側芽が残る高さを目安にする。

・萌芽期～1葉期に中～強被害を受けた場合は、浅せん枝により収量が増加(表1、図2)

・弱被害を受けた場合は、せん枝すると収量が減少(図2)

■経営への効果

・萌芽期に霜害が中被害の場合、無処理に比べ10a当たり約18万円所得が向上

※算出基礎 浅せん枝処理による収量増加 199kg/10a (無処理459kg、浅せん枝658kg/10a、玉露平均単価5,246円(H23-27全農京都市場平均)、歩留り0.18)

■普及のポイント

・本技術は、せん枝後、回復の期間が比較的長い極早生品種で利用します。

・せん枝は、1葉期までに中～強被害を受けた場合に可能な限り速やかに行います。

表1 処理条件

試験年	霜害時生育	霜害程度 ¹⁾	せん枝位置 ²⁾		生育日数 ³⁾
			浅	深	
2014	1葉期	強	-2.0	-4.0	34
2015	萌芽期	中	-1.5	-3.0	36
2016	萌芽期	弱	-1.5	-3.0	31

1) 頂芽と側芽が赤褐変した枝条または頂芽が褐変した枝条が全枝条に占める割合で区分した(強:90%、中:70%、弱:30%)。

2) 秋整枝面からの深さ(cm)

3) 処理日から摘採日までの日数

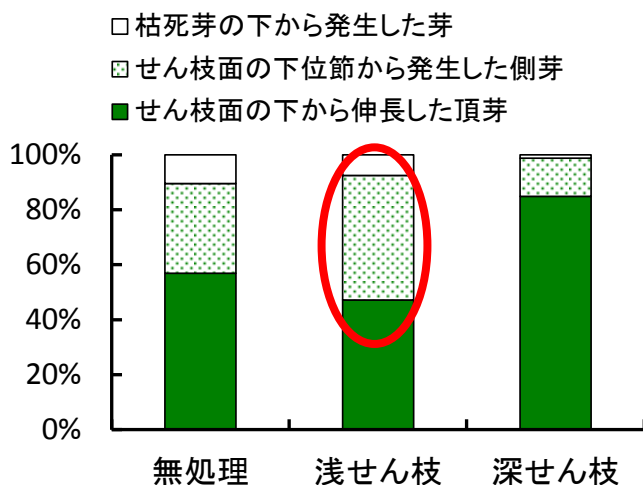


図1 全芽重に対する新芽区分の割合(2015年) 霜害:中被害(萌芽期)

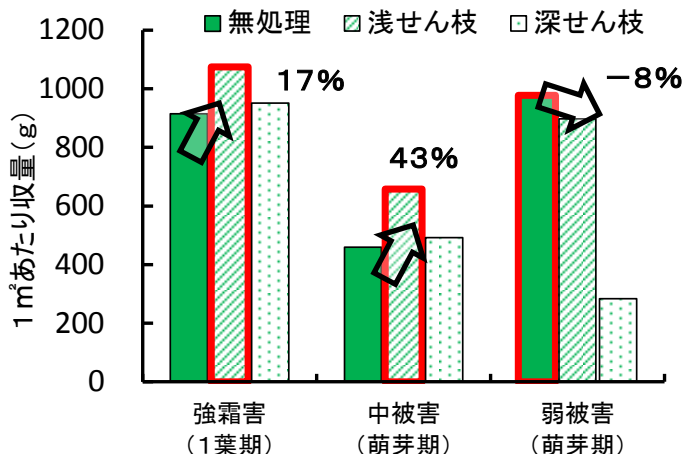


図2 霜害後のせん枝処理による収量への影響

